2024年10月13日　主日礼拝（第二）

説教題「この岩の上に」マタイ福音書16章13～24節

主任牧師　加藤　誠

「あなたはペトロ。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てる。陰府（よみ）の力もこれに抵抗できない。」（マタイ福音書16章18節）

「教会」はどのような集まりなのか。主イエスは「教会」に何を期待しておられるのか。先週に続いて、今朝も「教会」について聖書に聴いていきたいと思います。

今朝の主イエスと弟子のペトロとの対話は、主イエスが「人々は人の子のことを何者だと言っているか」と尋ねたことから始まります。「人の子」とは主イエスが御自分のことを語られるのによく使われた表現です。旧約聖書では一般に「人の子」は「人間一般」を指して使われますが、エゼキエル書だけは預言者エゼキエルに対して神さまが「人の子よ」と語りかける場面で約90回使われています。どんな時にも何を語るにも、神がエゼキエルに「人の子よ」と呼びかけて会話が始まる。エゼキエル書では、「人の子」は単に「人間一般」ではなく、「神の前に生かされる人の子」「神の言葉を受けずして生きることのできない人の子」というニュアンスが込められているのです。エゼキエルは「人の子よ」と呼びかけられるたびに「神に生かされ、神と共に立ち、神の使命を一緒に担うように招かれていること」を深く心に示されたことでしょう。これはわたしの解釈ですが、主イエスは預言者として神に立てられたエゼキエルを深く意識して、御自分のことを「人の子」と呼ばれたに違いないと思うのです。

いずれにせよ、主イエスが「人々は…何者だと言っているか」と尋ねられたわけですが、わたしは「なんだか主イエスには似つかわしくない質問だな」と思いました。私たちは「人々の評判」を気にします。良く言われればうれしいし、けなされれば落ち込む。けれども主イエスは、人びとの賛辞や悪評、玉石混交の評判に一喜一憂することなく、父なる神の御旨にだけ心の照準を合わせて歩まれたはずではないのか。それなのになぜここで人々の評判を尋ねたのだろう…。実は同じようなやり取りがヨハネ6章にも記されていますが、主イエスが一番尋ねたかったのは「それでは、あなたがたはわたしを何者だというのか」という問いだったのだろうと思います。このことに重ねて「教会」を考える時、私たちが常に問われていること。それはこの世界の中で「主イエスを何者だと告白するのか」ということです。他の人がどうのではない。「わたし」が問われている。「あなたは」主イエスを何者だと告白するのか。これは今日私たちに向けられた「中心的な問い」だということです。

この時、ペトロは見事に模範的な回答をしました。「あなたはメシア、生ける神の子です」。すると主イエスは言われました。「シモン・バルヨナ、あなたは幸いだ。あなたにこのことを現わされたのは、人間ではなく、わたしの天の父なのだ」。よく

読むと主イエスは「見事な答えだ」とか「正解だ」とペトロを褒めているわけではない。そうではなく「あなたがそう答えることができたのは自分の力ではない。天の父の恵みだということを忘れるな」ということです。これもとても大切なことです。私たちは自分の力でクリスチャンなのではない。神の恵みによって今日、クリスチャンにさせられている。この恵みをひと時も忘れてはならない。間違っても自分の力でクリスチャンになれていると考えたら大間違い。大谷恵護先生がいつも言われる言葉。「今日、僕がクリスチャンでいられるようにお祈りしてね」。この言葉に毎回「えっ」と思わせられながらも、こう正直に言えることは素晴らしいことだと思うのです。この言葉には、クリスチャンの信仰は神からの恵み以外、何ものでもない…ということが語られている。私たちの信仰は、今日誰かの執り成し、何よりも主イエスの執り成しにおいて与えられているもの。この恵みを忘れないようにしたいのです。

そして主イエスはペトロに次のような言葉を重ねられました。「あなたはペトロ。わたしはこの岩の上に、わたしの教会を建てる」と。もともとシモンという名の男に、主イエスがペトロ（岩）というあだ名をつけられて、それが彼の呼び名になった。「この岩の上に」＝「このペトロの上に」。この「岩」とは何を指しているのかが昔から論争を呼んできました。カトリック教会は「ペトロ個人」を指しているという理解しました。そして「ペトロ個人」に「教会の鍵＝権威」が授けられ、歴代のローマ法王はこの「ペトロの教会の鍵」を引き継ぐ正統な後継者なのだと考えてきました。

それに対して、この岩は「ペトロ個人」ではなく、彼の「信仰告白＝イエスは救い主」のことなのだという理解があります。ただペトロの告白は、言葉としては立派だけれども、中身を伴っていたのか。どこまで主イエスを正しく理解した告白だったのか…というと非常に頼りないものがあります。例えば、この直後にペトロは主イエスから「サタン、引き下がれ」と厳しく叱責されています。ペトロは主イエスを「神の子」と告白しながらも、主イエスのことがまったく理解できていなかった。人間の信仰告白は主イエスを救い主と告白しても、その理解が的外れな場合も少なくないのです。それは教会の二千年の歴史を見てもわかることです。教会は間違いだらけの歩み＝主イエスの名を汚すような歩みを、どれだけ重ねてきたことでしょうか。

では「この岩の上に」の「岩」とは何を指しているのか。ヒントは「バルヨナ・シモン、あなたは幸いだ。あなたにこのことを現わしたのは、人間ではない。わたしの天の父なのだ」（17 節）にあるように思います。つまり、ペトロに信仰告白を与えたもう「天の父の慈しみ、主の愛」です。何度ペトロがつまづいて失敗しても、嵐の湖の中に沈んでも、主イエスを知らないと言っても、そのペトロを繰り返し建て直す「主の愛」。この「岩なる主の愛」の上に「繰り返し建てられなさい」と教会は招かれているのです。今日「この岩の上に建てられる幸い」を喜んで受けていきましょう。